JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第45号 （2016年2月29日）

タマーシュ・ヴァルガのオケスタ・サロン再び開催決定！（11月）

昨年に続き、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者のタマーシュ・ヴァルガ氏によるオーケストラ・スタディ（オケスタ）が開催されることが決まりました。オケスタの主な受講対象者は既にプロのオーケストラで活躍する若手演奏家や、将来プロ・オーケストラへの加入を目指す方たちですが、会員をはじめ広く一般の方にも聴講頂くことが出来ます。オケスタは、チェロ協会の趣旨である「次代を担う若いチェリストの育成」の一環として企画されています。多くの皆さんの受講・聴講をお待ちしています。受講や聴講のお申込など詳細は、今後ウェブサイトなどを通じてご案内致しますので、楽しみにお待ち下さい。

タマーシュ・ヴァルガのオケスタ・サロン

日　付：2016（平成28）年11月14日（月）
開　講：18時30分
会　場：サントリーホール　ブルーローズ

■講師 Profile

タマーシュ・ヴァルガ/Tamás Varga

ハンガリー・ブダペスト生まれ。リスト音楽院にてL.メゼー、F.ラドシュ、G.クルタークに師事、優秀な成績で卒業。現在、ウィーン・フィルおよびウィーン国立歌劇場管弦楽団の首席チェリスト。ソリスト、室内楽奏者としても活躍。教育者としては、ヨーロッパからアジアに至る世界各地でマスター・クラスを持つ。また、グスタフ・マーラー・ユーゲント管弦楽団やアッターガウ（オーストリア）のインターナショナル・オーケストラ・インスティテュートで 指導にあたっていた。

第6回チェロの日「チェリストと チェリストと チェリストと あなたと」開催間近！

3月20日（日）～21日（月／祝）にかけて、日本チェロ協会は「第6回チェロの日」を実施致します。20日に開催される「チェロと仲良くなるコンサート」では、チェロ×ピアノ、チェロ×バンドネオン、そしてチェロ×チェロといった多彩な組み合わせによる演奏で、チェロに馴染みが薄い方にも楽しんで頂けるプログラムが予定されています。21日には、恒例となったチェロ・オーケストラによる演奏を中心とした「チェロでひとつになるコンサート」を開催。今年も山本祐ノ介さんを指揮者に迎え、チェロ協会会員を中心とした「チェリストの集い」参加者約70名によるチェロ・オーケストラ（チェロ・オケ）が演奏。当日のコンサートに向けて、参加者の皆さんは12月から自主練習会を実施するなど、準備に余念がありません。なお、チェロ・オケに先だって、最近音楽コンクールで上位入賞した佐藤晴真さん・森田啓佑さんが登場します。

「チェリストの集い」には会員を中心として約60人が申し込みをしています。チェロ・オケに出演するほか、21日のお昼に開講される「チェロ・ゼミナール」を受講する予定です。チェロ・ゼミナールの様子は、次号 JCS Newsや日本チェロ協会のウェブサイトでもご紹介する予定ですので、お楽しみに！

JCS NEWS 第45号 コンテンツ

1 オーケストラ・スタディ/チェロの日のご案内
2・3 チェロの日参加者の声/マスタークラス開催報告
3・4・5 マスタークラス開催報告
6・7 Cellists' update
8 メンバーズ/事務局からのお知らせ

メンバーズ

上野 弘一郎さん
(R-250)

2006年の特別企画「チェロの音楽会」に参加した折、ヨーヨー・マさんが堤会長に会いに来られ、突然、合奏に入って一緒に演奏してくれました。皆さん大興奮になりましたが、これがきっかけとなり、以後、各種イベントに参加しています。中でもチェロサロンにはクリニックやアンサンブルがあり、先生方の懇切なご指導、大変参考になっています。また、「チェロの日」では、事前に、楽しい自主練習があり、曲の全容もわかるようになりました。オケの面白さも感じ、地元のアマオケにも入り、スコアにも少し慣れました。

現在は、アマオケのほかアンサンブルも続けています。チェロの楽しみは、なんと言っても皆さんと一緒に演奏することですが、一人で練習する時は、なにも考えず無我の境地になることができ、癒されます。最後になりましたが、ご指導いただいている諸先生、並びにチェロ協会の皆様、本当にありがとうございます。

事務局からのお知らせ

退任のご挨拶

わたしのチェロ協会との出会いは2002年の秋でした。当時ハーゲンダッツジャパンに勤務していたわたしは人事異動でサントリーホールへ転任となりました。クラシックも知らず分からずのわたしに、更にチェロ協会事務局長の重責が。あれから13年と4ヶ月、チェロのない人生は考えられないと思うほどの今の自分がいます。チェロ協会の仕事を通じて知り合った事務局の仲間の皆さん、会員の皆さん、チェリストの皆さんとの出会いがわたしの人生の大きな部分を占めることになりました。わたしはチェリストにはなれませんでしたが、チェロを愛せる一人になれたことをこの上なく幸せに思っています。チェロの音色、形も色も、チェロを抱えて（背負って）歩くチェリストの姿もみんな好きでたまりません。わたしの人生をこんなに豊かに、楽しくしてくれたチェロ協会との出会いと、チェロ協会の活動をこれまで支えて下さった皆様に心から感謝致します。

わたしは12月末をもってチェロ協会を離れ、今ベトナムで新しい生活をスタートしました。日本チェロ協会ベトナム支部としてお役に立てる日が来れば良いなと密かに願っています。また、創立20周年に向け、日本チェロ協会のさらなる発展をお祈りしています。　　飯田芳憲（ハノイより）

■総会を開催

2016年度は総会を開催いたします。日時、場所についての詳細は追ってご連絡いたしますが、皆さんのご参加を心よりお待ち申し上げます。

■2016年度会員更新のお願い

今年度も残り僅かとなって参りました。4月以降、2016年度会員更新のお知らせをお送りいたしますので、更新手続きをお願いいたします。尚、2015年度の会費未納の方は速やかにお納め頂きますようお願いいたします。

■HP“チェリストを探す”・“公演情報”の募集

ホームページではチェリストを紹介する“チェリストを探す”、公演情報を掲載する“チェロの公演情報”のページを設けています。プロ、アマチュアに関わらずチェロの活動や公演情報についてお寄せください。HPから直接投稿頂くか、メール、FAXで承っておりますので、皆様のご投稿をお待ちしております。

■イベントボランティア大募集

チェロ協会では毎年チェロサロン、マスタークラス、チェロの日等年に数回イベントを開催しています。多くの方に活動を知って頂くため、ホームページやフェイスブック、またチェロの日特設ページを充実させたいと考えています。そこでメールでのやりとりが可能な方で広報にご興味のある方はぜひ！事務局までご連絡ください。

編集後記

昨年末、事務局長として、また、事務局長補佐としてチェロ協会に長年ご尽力頂いていた飯田芳憲さんがご退任されました。私は事務局に入ってから早5年経ちましたが、サントリーホールからの引っ越しを始め、大雪のチェロの日、初めて取り組むアウトリーチ等、飯田事務局長のもと沢山の経験をさせて頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。今後は飯田さんの後を引き継ぎまして事務局長補佐として精進して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。　　佃 香菜子

日本チェロ協会会報（JCS NEWS）第45号　　2016年２月29日発行
発　行：日本チェロ協会　東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 私書箱509号
電話 03-3505-1991　FAX 03-3582-1310　E-mail office@cello.gr.jp
発行人：堤 剛　　編　集：日本チェロ協会事務局　　編集協力：三和プリンティング（株）

“チェリストの集い”参加者より

チェロの日に参加するのは今年で2回目になりますが、自主練習には欠かさず参加するように心がけています。小林幸太郎さんにご紹介頂きチェロ協会へ入会しましたが、普段アンサンブルをする経験が少ない私にとって練習会はとても身になり毎回勉強させて頂いています。毎回約30名前後の方が参加されています。やはり他のパートの音を聞きながら練習すると音が豊かになり、耳が鍛えられるので自分のパート練習に役立っていると感じます。皆さんとてもよく練習して積極的に参加されているので、私自身も意識を高く持って参加することができています。今年の5月でチェロを始めて丸5年となりますが、マスタークラス等の聴講を通して、上達のきっかけを頂くことがあるので、うまく弾けないことがあっても練習をしてサントリーホールで発表する場があるというのはとても有り難いことです。今から本番をとても楽しみにしています。

三上久美子 (R-428)

＊ ＊ ＊

単身赴任をきっかけに始めたチェロ暦も10年になります。普段は、家族のいる札幌のオケと転勤先のオケに所属しています。練習は毎日と言いたいところですが、主に休日に数時間、早く帰れた日に1～2時間何とか確保しています。函館から参加させてもらっていますが、移動時間は飛行機で3時間程度、JRを使うと6時間程度の時間がかかります。自主練習には月1回参加できるように調整しています。他のパートの音、フレーズの感覚を忘れないように、途中で落ちても復帰できるように聞き耳を立て、帰宅後練習のイメージ作りに集中しています。チェロの日への参加は、以前にヤマハで行っていたチェロフェスタに参加していて、そのイベントが継続されなくなったときにWebで見つけたのが、チェロの日でした。チェロアンサンブルは同じ楽器で奏でられる楽曲の中にどっぷりとつかり、クラッシックからポップスまで暖かみのあるサウンドが魅力的です。チェロの日が毎年開くスタッフの皆さんに感謝し、プロの方との演奏機会を得て、少しでも技術が向上するように楽曲に向かい、当日は皆さんの中で演奏することを思いっきり楽しみたいと思います。

大間 透 (R-384)

“チェリストの集い”自主練習会の様子

「チェロ協会と世界の仲間たち」マスタークラス開催報告

日本チェロ協会は昨秋、世界で活躍する3人のチェロ奏者マエストロをお招きして「チェロ協会と世界の仲間たち」と題した３回連続のマスタークラスを開催しました。一連のマスタークラスでは、将来が嘱望される音楽学生を主な対象とした「バルビ先生とチェロを学び、音色を楽しむ夕べ」、非常に若い演奏家を対象とした「シュテファン・コンツと未来のチェロ・マスターたち」、そしてプロのオーケストラ奏者を目指す若手を対象とした「タマーシュ・ヴァルガのオケスタ・サロン」を実施。日本チェロ協会の活動趣旨にある“次代を担う若いチェリストの育成に協力”そして“海外のチェリストとの交流”のまたとない機会として、多くの方に参加頂きました。それぞれのマスタークラスの様子と受講者の声をご紹介致します。

■バルビ先生とチェロを学び、音色を楽しむ夕べ

2015年10月10日にサントリーホール ブルーローズで開催。来場者数101名

ヘスス・カストロ=バルビ先生はアメリカを中心に世界で活躍するチェロ奏者、教師。第一部はマスタークラスで音高生、音大生のふたりの女性チェリストが受講され、その温かい人柄が滲み出るレッスンでした。第二部はピアニストであり、夫人であるグロリア・リンとのデュオでプロコフィエフのチェロソナタを熱演。次いでこの日のために小林幸太郎氏によって作曲された「Nagi～2本のチェロとピアノの為のソナタ」が演奏されました。第二チェロ奏者は堤会長。チェロの重音奏法によって自然の大きさを感じる響きが特徴的でした。3曲目は3本のチェロのためのレクイエム（ポッパー）。第三チェロに小林幸太郎氏が加わっての熱演でした。

受講レポート

牟田口 遥香（東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校 在学）
（伴奏：井関 花さん）
ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 第3楽章

この度は貴重なレッスンを受講させて頂きありがとうございました。今回ようやく受講できる年齢になり、バルビ先生からご指導頂けたことはとても嬉しく大変勉強になりました。レッスンでは始めに、受講曲のドヴォルザークの協奏曲3楽章を通奏しました。演奏後、先生は講評より先に演奏家とはどのような職業か、ということについてお話しされました。演奏家とは、作曲家とお客様の間をつなぎ作曲家が伝えたかったことを聴衆の皆様に伝える職業。作曲家の意図と自分自身の解釈を融合させていくことが大切だと思いました。今後は演奏家の意図を伝える、ということを常に念頭に置き作品と向き合っていきたいです。レッスンでは45分と時間が短いこともあり、細かいことよりも曲の大きな流れについて教えて頂きました。コンチェルトを弾くときは顔を上げて自分を大きく見せる必要がある、と先生は話されました。苦手意識をもっている分野だけに、克服できればぐっと演奏が良くなると思いました。日頃からオーケストラをバックに弾くことをイメージして練習することも大切だとお話しされました。実際に先生が指揮者の立ち位置に立たれ、指揮者とソリストの間の高低差を再現してくださいました。目線をぐっと上に挙げないと指揮者とコンタクトがとれないことを初めて知りました。まだオーケストラと共演したことが無いので、高低差や距離感を理解した時は新たな知識が増えたことがとても嬉しかったです。レッスンでは曲の最後の方は見て頂くことが出来ませんでしたが、45分という時間で本当に多くのことを学ぶことが出来ました。最後になりましたがこのような貴重な機会を与えてくださった日本チェロ協会の皆様にお礼申し上げます。今後も努力を重ね、お客さまと一緒に音楽を楽しむことの出来る演奏家に成長します。ありがとうございました。

濱田 遥（桐朋学園大学 在学）
（伴奏：飯塚奈緒美さん）
エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調 作品85 第4楽章

私はこの度エルガーのコンチェルト4楽章で受講させていただきました。今回のレッスンは「ホールでいかに響きのあるフォルテの音が出すか」というテーマで教えていただきました。先生からのご注意は、楽器の構え方は3点で支えることが基本であるということや、自分の身体がミュートになって楽器の響きを吸い取ってしまわないように注意すること、弾いている弦が自分の身体の真ん中にくるようなイメージで

弾くことなどでした。

日頃、私は楽器の構え方についてどうしても自己流のままで弾いてしまい、いい音を出すために楽器の構え方の重要性をあまり意識していなかったので、とても新鮮でした。先生のおっしゃったことをその場で色々と試してみましたが慣れないせいもありすぐにはコツがつかめず、これからの課題だと思いました。その他にこの曲の和音は2弦ずつしっかりと響かせること、アクセントの音は腕の重みを使い弦をしっかりと押すこと、ビブラートは弦を指で覆い尽くし手首全体で振るつもりでかけることなど、たくさんのご注意をいただきました。バルビ先生は何度も私の楽器で音を出して下さり、その度にクリアで澄んだ音がホールに響き、お客様もどよめいていました。同じ楽器であるにも関わらずこんなにも音の豊かさが違うのかとはっとしました。

今回たくさんのヒントを先生からプレゼントしていただき、とても感謝しております。これからは先生の豊かな音を忘れずに自分で色々と試しながら音を追求していき、またいつかバルビ先生に聴いていただける日がくるといいなと願っています。このような勉強の機会をいただきましたことを心より感謝いたしております。

～「Nagi」2本のチェロとピアノの為の～

今回チェロ奏者として、また作編曲の活動も行う者として大変素晴らしい機会を堤剛先生より頂きまして非常に光栄に思います。「Nagi」は最初の主題をある程度固めた段階で付けた標題です。そのコンセプトを元に展開をしていきました。最初のテーマは自分らしさを、展開していくその先はコンセプトを元に日本人のチェロ奏者としての作品といった所も意識して音を選んでいます。楽器の中でも非常に高いポテンシャルと表現力を持つチェロの特性と日本語の多様性を活かした作品にしてみました。「なぎ」と聞くとまず「凪」を想像されるかと思いますが、最初のテーマは「凪」から始ま

り、そこから日本語特有の「同音異義語」「和ぎ」、「神籬（ひもろぎ）の梛」「薙ぎ」を曲中で表現しています。波よりも小さな揺れや非常に細かいニュアンスを表現できるチェロと、圧倒的音数から神秘的な音の重なりを連続して構成する事が出来るピアノが混ざり合う作品となっています。

この度、初演を素晴らしい先生方に支えて頂きとにかく感動しっぱなしの１日で、本番もイメージしていた物以上のサウンドで忘れられない本番となりました。リハーサル時には普段は色々な教えや御意見を頂いていた先生にこちらから色々リクエストをさせて頂くという大変貴重な経験もできました。チェロのアンサンブルの為のオリジナル曲は多くはない為、これからもいろんな方に聴いて頂いたり演奏して頂けたら幸いです。

今後はやはりチェロの為の曲という物をもっと増やしていき沢山の方にチェロの素晴らしさをもっと感じて頂けたらと思います。出来る事なら自作自演も今後行っていきたいと考えています。

今回作曲家としてのデビューをチェロ協会の皆さまや先生方に支えて頂き本当に素晴らしい機会を頂けた事に感謝しております。今後もどこかのコンサートで僕の携わった作品がある時は是非楽しんで頂けたら幸いです。この度は本当に有難うございました。

小林幸太郎

■シュテファン・コンツと未来のチェロ・マスターたち

2015年10月24日にサントリーホール ブルーローズで開催。来場者数64名。

コンツ先生はウィーン・フィルを経てベルリン・フィルに移籍したというとてもユニークな経歴で現在はベルリン・フィル12人のチェリスト達の主要メンバーでもあります。第一部はソロ・マスタークラス。小学生の西田翔さんがベートーベンの名曲を熱演。コンツ先生によるアドバイスをどんどん吸収して演奏にテンションが加わり、さらに幅広い表現に変わっていきました。二人目は高校生の湯原麻衣さんがエルガーのチェロ協奏曲で受講。ここでもコンツ先生のダイナミックな表現に刺激されて湯原さんの音楽がどんどん豊かになっていきました。

受講レポート

西田 翔（鹿児島県市立明和小学校 在学）
（伴奏：小森谷 裕子）
ベートーヴェン：チェロソナタ 第3番 イ長調 作品69 第3楽章

コンツ先生はすごく優しくて、真剣に教えてくれました。言葉が通じなくても、音や弾き方で伝わってきました。ぼく

は、体が小さくて、チェロも小さいから、いつも深くて大きな音を出したいというイメージが強かったけど、コンツ先生がフレーズを教えてくれて、意識して弾いてみると、ぼくのチェロの音も今まで出したことのない美しい音色に変わったので、自分でも驚きました。そして、ベートーヴェンのソナタだからと、練習するときには、フォルテやピアノをしっかり覚えて、そのように弾いていたつもりだったけど、解釈を教えてもらって、もっと変化がついたと思います。伴奏の小森谷先生のピアノにコンツ先生のチェロがのった時、近くで聴いていて興奮しました。こんなふうに演奏したい、と思って弾くと、ぼくの演奏も変わったような気がしました。今回はたくさん学べて、楽しかったです。ありがとうございました。

湯原 麻衣（東京藝術大学附属高等学校 在学）
（伴奏：横井 舞菜）
エルガー：チェロ協奏曲 ホ短調 作品85 第4楽章

今回のシュテファン・コンツ先生のマスタークラスはエルガーチェロ協奏曲第4楽章で受講させていただきました。私は、今までに何度か他の方のマスタークラスを聴講させていただいていましたが、その度に、「私もいつか受講させていただきたい。」と思っていたので、今回受講が決まった時はとてもうれしく思いました。

私がマスタークラスで一番印象に残っていることは、ビブラートのかけ方です。私自身、ビブラートはどのようにかけたら良いのか以前から悩んでいました。コンツ先生は私の腕をとり、回しながら「こんな風に脱力してビブラートをかけるんだよ。」とおっしゃいました。しかし、それを真似して自分でかけようとしましたが、前からの癖もあってか、なかなか同じようにはできませんでした。しかし、コンツ先生は他にもいろいろな方法で脱力の仕方、腕の回し方、肩からの使い方など、細かくビブラートについてたくさん教えてくださいました。また、先生からは、姿勢で音が大きく変わるということも教えていただきました。エルガーの4楽章のテーマで、私は腕の重みをできるだけ下に持っていこうと思うあ

まり、下の方を見ていました。しかし、それを見て先生は「そういうときは上の方を見た方が凛々しくなる」と教えてくださいました。その後、先生のおっしゃる通りに姿勢を良くして弾いてみると音の張りが全く違いました。「姿勢だけでもこんなに張りがでるのか」と本当に驚きました。さらに、ピアノと合わせる時の合図の出し方など、基本的なこともたくさん教えていただきました。

今回のマスタークラスでは、ビブラートのかけ方、脱力の仕方、音の出し方など、私がずっと悩んでいたことの解決方法をたくさん見出すことができました。これから音楽を勉強していく上での刺激になり、大きな励みになりました。

最後になりましたが、このような貴重で素敵な時間を作ってくださった、コンツ先生、通訳をしてくださった方、チェロ協会及び関係者の皆様方には心から感謝しております。本当にありがとうございました。

第2部　アンサンブル・マスタークラス

浅野玲子、小粥麻莉菜、高部漢、西田翔、堀内真名、堀川さや、吉成ひとみ、渡部馨
（特別出演：今泉晃一、佐山裕樹、築地杏里、羽田捺南）
ゴルターマン：セレナーデ

後半はチェロアンサンブルレッスン。ブルーローズのステージに12人の受講生チェリストが扇形に並び、まさにシュテファン・コンツ率いる12人のチェリストたち。みんなで一緒に演奏するとはどういうことか、どんな点に気を配ればいいかを丁寧に伝授いただきました。ゴルターマンのセレナーデは流れがあって美しい曲ですが、さらに表情豊かに響かせるにはどんな点に注意すべきか、時に模範演奏を交えつつ熱く語るコンツ先生の後ろ姿を見ながら客席で聴講した皆さんも一緒に大切なものを学びました。

参加者の感想より

・ソロの公開マスタークラスは音高くらいになってからでないと、となかなか自信がなく応募できないが、今回のような室内楽、オーケストラ、ジュニア対象のマスタークラスをたくさん開いて下さると嬉しい。
・思いがけず少人数の贅沢なレッスンで、短時間ながら先生の素晴らしい音と的確なアドバイスに導かれ、音楽を作り上げる喜びを体験できた。大変貴重で幸せなひとときを過ごすことができた。また、つかの間だったが新しいチェロ仲間と出逢い、情報交換の機会が持てたことも大きな収穫だった。
・自宅での練習で、以前より響きがとてもよくなり、楽器が鳴るようになったように感じる。耳がそちらに向くようになったのかもしれない。コンツ先生の身体の中からあふれ出る、力強く、優しい音色に、身体が震えた。技術以上に、何

はなくとも、心が大切であると感じた演奏だった。ぜひ第2弾をお願いしたい。
・またこのような機会があったら参加したい。

■タマーシュ・ヴァルガのオケスタ・サロン

2015年11月13日にサントリーホール リハーサル室で開催。来場者数45名

ヴァルガ先生はウィーン・フィルの首席チェロ奏者。オーケストラの中でチェロパートメンバーとして演奏する際に大切なこと、ソロ演奏とは異なる極意を伝授いただきました。作曲者が意図したことを楽譜から読み取りいかに無理なく正確に弾くか。リハーサル室は狭い空間であったためヴァルガ先生、受講生たちと聴衆とが一体になった空間に親密さと密度の濃い時間が流れました。

受講者：相浦薫、安食千尋、石崎美雨、伊東裕、今泉晃一、日下部杏奈、下斗米恒介、高木冴子、濱田遥、堀井龍太郎、牟田口遥香、山本龍、湯原麻衣
シュトラウス：英雄の生涯より 冒頭部分
ベートーヴェン：交響曲第9番 第4楽章より

参加者の感想より

・他の楽器がどのような動きをしているのか把握して、その動きに合わせた強弱や音色を作っていくことが大切であると学んだ。
・オーケストラで演奏するにあたり、一番大事なことは楽譜に書いてあることをよく読み込んで音として忠実に再現すること。シンプルなことだが、それを演奏で表現していけば作曲家が残した曲の素晴らしさを改めて実感出来るのではないか。
・オーディションの準備以外でオケスタをじっくり勉強することはなかなかなかったが、今回ヴァルガ先生からオケスタをじっくり教わることが出来て大変貴重な体験になった。
・弓の使うスピードが周りと合っていないと気づいた。
・フィンガリングについて、ppでも左手はしっかり押さえる、基本が音量や音程に気を取られて疎かにしてしまっていた所を指導して頂いた。

岩﨑 洸 (R- 033)　Ko IWASAKI

1. チェロを始めたきっかけを教えて頂けますか？

チェロを初めて手にしたのは11歳の時です。姉、淑の桐朋のクラスメイトが家に来て室内楽を演奏した時に目の前に大きな楽器を見て、これが良いと思い父に話したらすぐ翌日、分数チェロを持って来てくれました。ヴァイオリンやピアノは弾いていましたが、チェロは直ぐにヴィヴラートが出来たので嬉しかったのを覚えています。

2. 岩﨑さんが一番ワクワクするときは、どんなときですか？

音楽面では、演奏会で自分の演奏表現が聴衆に伝わっていると感じる一瞬ですかね。特にベートーヴェンのソナタを弾くときは感じます。

3. チェロ以外に好きなことはありますか？

写真に興味が有り、ニューヨークに居たころは暗室での現像もしていました。現像液によって映し出される白黒の絵が浮き上がってくる瞬間が実に神秘的に思っていました。

4. 海外でのチェリストのネットワークなどはありますか？また、海外での公演において面白いエピソード等ありましたらご紹介頂けますか。

私の住んでいるダラス／フォートワースでチェロフェスティバルが１年おきに有ります。昨年の10月にチェロソサエティのゲストに招かれていたJesus　Castro- Balbi 氏が開催しています。ここで多くのチェリストに会うことができます。3日間のという短期間のフェスティバルですが、全米から集まる学生の為のマスタークラス、コンクール、チェロアンサンブル、アーティストのコンサート、など盛りだくさんです。

5. 近況や今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください

昨年の6月にスペイン、バルセロナのカザルス財団に招かれカザルスフェスティバルで演奏会をしました。バルセロナの郊外のエル・ヴェンドレイという海辺の町で開かれていて去年で35年目でした。この町は、パブロ・カザルスの出生の地です。このヴェンデレイカザルスミュージアムとコンサートホールは私がマエストロカザルスに学んだプエルトリコとまるで同じ海辺に有りとても美しい場所でした。私がマエストロに初めてマスタークラスを受けたのが丁度ハーフセンチュリー前の1965年と云う記念すべき年に成ったと云う事もあり感無量の時間でした。

博物館では写真や自筆入りの楽譜をはじめ、マエストロの功績や平和に対する思いを表す様々な展示物がありました。彼の演奏だけではなく、これらの貴重な功績を忘れられない様、後世に伝えて行くことは大切だと思います。

[演奏会情報]

第29回　二宮和子 クラリネットリサイタル

日時/2016年4月27日（水）19:00
場所/東京文化会館小ホール
出演/二宮和子（Cl）、藤井一興（Pf）、久保陽子（Vn）、川本嘉子（Vc）、岩﨑 洸（Vc）
料金/一般¥5,000　学生¥4,000（全席自由）
曲目/メシアン：世の終わりのための四重奏曲、他
問/インターミューズ・トーキョウ　03-3475-6870

植草 ひろみ (R-011)　Hiromi UEKUSA

1. 近況を教えてください

昨年は2枚のCDを出すことが出来ました。
This is Liberoba／Liberoba-リベロバ：ピアソラの親友チェリスト／ホセ・ブラガートさんに会いにブエノスアイレスに行き、その時に頂いて来た楽譜の数々や、アンドレ・ギャニオンさんとの交流から『チェロとピアノの為のソナタ』を収録することが出来ました。それらの曲はチェロのレパートリーとして多くのチェリストに知ってもらいたいと思っています。
Sound of the Sky／植草ひろみ　早川りさこ：ガリアーノの『セーヌのブルース』や、ヒナステラの『忘れる木の歌』、トゥルニエの『チェロとハープの為のノクターン』など珍しいレパートリーを収録、幼なじみ2人によるデュオアルバムです。CDの他にハイレゾサラウンドでも配信されています。

ご縁を頂いた事で弾くことができる宝物のような曲達に囲まれて、私が弾く運命も感じながら演奏出来るのが本当に幸せな事！と思う今日この頃です。
アルバムについてはこちらを：
http://www.u1.sokei.co.jp/Hiromi/disco/disco.htm

2. チェロを始めたきっかけを教えて頂けますか？

ピアノを本格的にやっていた小学生の頃、右の小指が腱鞘炎になってしまい、アマチュアでチェロを弾いていた父のチェロを弾いてみたところ、低音の魅力にハマりました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

新しいレパートリーを考えている時。最近は作曲もするので、曲がどんどんふくらんで行く時などです。

4. 昨年結成されたリベロバの活動についてお聞かせ頂けますか？

作曲家でピアニスト（ニューエイジ・ミュージック）の中村由利子さんとの自由な音楽を奏でることをコンセプトに結成されたユニットです。二人ともピアソラが好きという事で、ブラガート、グアスタヴィーノなどアルゼンチンものに加えて、自分たちのオリジナル曲やコンサートではその場で頂いたお題を由利子さんが作曲！その場で演奏するなど、チャレンジを続けます。ラジオ番組も毎週やっています。

5. 若いチェリスト（プロのチェリストを目指している学生）に望むことはございますか？

私の今の活動は人とのご縁が繋がり、コンサートやCDリリースなど一つずつ夢を叶えています。ご縁を大切に、夢を持って突き進んで欲しいです。

[演奏会情報]

ペギー葉山リサイタル

日時/2016年4月20日（水）
場所/東京文化会館小ホール
出演/ペギー葉山（Vo）、リベロバ：中村由利子（Pf）、植草ひろみ（Vc）他
料金/¥6,000（全席指定）
問/東京労音

タマーシュ・ヴァルガ　Tamás Varga

1. 近況や最近の活動を教えてください

前回、2015年11月に日本から帰国して、リサイタルを2回（シューマン、シューベルト、ベートーヴェン、ブラームス）と、室内楽を4回（八重奏と四重奏）、ハイドンの協奏曲とバッハの組曲の演奏会がありました。オーケストラでは、ヤンソンス、ティーレマン、ネルソンス、ミンコフスキーと共演し、1月は、オペラ座で、ワーグナーのリングと、サロメ、リヒャルト・シュトラウスのアラベラと、大作が続きました。今は、次のシーズンの、CDの録音、ドボルジャークとラロの協奏曲、コダーイのデュオの準備などをしています。CDは6月にイタリアで録音、カメラータ・トウキョウから発売されます。お楽しみに。

2. チェロを始めたきっかけを教えて頂けますか？

所属していた児童合唱団では、皆、楽器を勉強することになっていました。楽器のことは何も知らなかったのですが、特に理由もなく、チェロを選びました。「チェロ」という名前を気に入っていました。

3. ヴァルガさんが一番ワクワクするときは、どんなときですか？

同じ音楽的な嗜好を持った音楽家に出会うと、忘れられないようなコンサートになります。同等の技術レベルがあって、個人的にも互いに理解できる人との出会いに、ワクワクします。

4. 一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

自然の中にいるとき。晴れた日に、湖や丘や森にいると、リラックスします。

5. チェロ以外に好きなことはありますか？

山でのハイキング、卓球、スキー、海やエキゾチックなところへの旅行。あと、料理も。実は、「刺繍」も趣味です。クロスステッチのテーブルクロスとか見ると、よく裏返してます。

6. ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団・ウィーン国立歌劇場管弦楽団首席を務められておりますが、オーケストラで演奏する醍醐味をお聞かせください。

オペラの首席チェロは、ほぼ毎回ソロがあります。オーケストラでもありますが、オペラほど頻度はありません。大人数のお客様の前で（2000名を下回ることは少ない）、定期的に演奏すること、また同僚たちの前で演奏することは、エキサイティングな瞬間です。

7. オーケストラ・スタディーの受講生に向けて、一言お願いします。

このクラスでお伝えしたいことは、“オーケストラで演奏することの素晴らしさをどう見つけるか”、です。なぜなら、オーケストラで演奏することは、とても楽しいことだからです。この30年間、ずっとオーケストラで演奏してきました。自分が楽しめなかったら、こんなに続きませんでした。オーケストラで演奏することは、セクションの仲間だけでなく、他の奏者とアンサンブルをすることができて、更に、首席は特に、自分を表現することもできて、様々なことができます。

私のオーケストラ・スタディーの目標は、各自が、どのようにそれを為し得るか、見つけて欲しいと思います。具体的には、緊張しすぎることなく楽器を心地よく演奏できること、あるいは、パッセージを気持ちよく演奏できるようになればいいと思います。心地よく演奏できることがオーケストラでの演奏を楽しむ唯一の方法だからです。

［インタビューの全容は“https://youtu.be/kbZsKHkRd2k”でご覧いただけます。］

伊藤 悠貴 (R-488)　Yuki ITO

1. 近況や最近の活動を教えてください

ロンドンと国内各地でリサイタルやオーケストラとの共演で活動させていただいています。

2. チェロを始めたきっかけを教えて頂けますか？

初めに数ヶ月ヴァイオリンを習ったのですが、「どうして先生は座って教えているのに僕は立っているの？」、と家で言っていたそうで、そこで両親がチェロを紹介してくれたのです。

3. 伊藤さんが一番ワクワクするときは、どんなときですか？

言葉を使わずに音楽を通して意思疎通が出来た時。

4. 一番リラックス出来るのは、どんなときですか？

大切な人や親友と、心を許し素の自分でいられる時。

5. 演奏活動の中で印象に残っている出来事やエピソード等教えて下さい。

あるリサイタルにて…次に弾く曲を勘違いし、始まりの音を左手で押さえた時に出る微かな音を共演のピアニストが一瞬のうちに聴き取り、僕が弾き始める前に、元々弾く予定だった曲の最初の和音を弾いてくれ、それに対し一瞬で指板を移動修正し事なきを得、それがお客様にも分かりどよめきが起きた時、ライブ演奏は楽しいと感じました。

6. ロンドンと日本に拠点を置いて演奏活動をされていらっしゃいますが、ロンドンの音楽活動においてエピソードなどありましたら教えて下さい。

フィルハーモニア管弦楽団とコンチェルトデビューした時のこと、女王居城のウィンザー城で、迷路のような城内を案内されながらたどり着いた控え室（多分メイドの部屋と思われます）からの眺めが見渡す限りの美しいグリーンと川…想像を絶する今でも忘れられない絶景です。

7. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください。

イギリス、特にロンドンでは他の国や都市と比べ、聴衆とアーティストとの距離が近く、より一体感があると思います。また演奏後のリアクションも大きいように感じます。アーティストにとって良いものは良い、悪いものは悪いとはっきり聴衆に示してもらうのが一番だと思うので、良くも厳しくも、世界で最も重要な音楽マーケットプレイスの一つであり、アーティスト達が凌ぎを削るロンドンは、イギリスと日本の掛け橋を目指し在英11年目の今現在も、僕にとって夢と刺激の絶えない地です。これからも精進を続け、イギリスと日本の架け橋といったチェリストになるのが目標です。

[演奏会情報]

NHK-BS「クラシック倶楽部」/
NHK-FM「ベストオブクラシック」収録
～宮沢賢治生誕120年記念リサイタル～

日時/2016年6月11日（土）
場所/花巻市文化会館（岩手県）主催：NHK
出演/伊藤悠貴（Vc）、ダニエル・キング＝スミス（Pf）
曲目/ラフマニノフ：チェロソナタ 作品19、宮沢賢治にちなんだ作品、ほか
問/ソナーレ・アートオフィス　03-5754-3102
http://www.sonare-artoffice.co.jp/